

平成25年度 わくわく市民懇談会

(竹原区 隣組長、団体長会議、および行政懇談会)

1 日 時 平成26年2月6日(木) 午後5時00分~午後5時35分

2 場 所 竹原研修センター 2階

3 出席者 来賓・法人 12名
竹原区役員等 37名
合 計 49名
市長、随員職員2名

4 次 第

市長講話

- 1 市庁舎、市民会館建設について
- 2 農業振興策と後継者対策について

質疑応答

「市長講話」

市庁舎・市民会館建設について

- 今年度、検討会を開き、意見を集約いたしまして場所等は決定させていただきました。現段階は、平成 26 年度に市庁舎を先行するというので、今、この段階で申し上げられることがあるとすると「虚心坦懐」というところです。先ごろその準備会を市役所で開きましたが、これからのスケジュールについての確認、基本的な考え方について話し合っております。私から「市役所の施設は、市役所の職員のための施設ではない」ということを職員に伝えてあります。市民のみなさんが活用する施設です。その中身については市民のみなさんやいろいろな組織の意見を聞きながら決めていきたい。

- 市民会館につきましても、どこに建てるのか、建てられるのかという声、それから昨今の労務費、建設資材価格の高騰、当初定められた予算でできるのかということですが、これも設計等してみないと答えは出せないということで、こちらで報告はできないと思っております。市としてこれからのことを考えてみますと、市庁舎、市民会館とかいろいろなものを含めますとだいたい 100 億近い投資になると考えております。今、投資と申し上げましたが、単なる投資ではなくて、私はすべての建物はみなさまの税金等を使って建てることにはなりますが、投資という考え方を持っていきたい。そういった要素を考え方に入れる方針として掲げています。

- これまで、いろいろな市町村を訪ね自分の目で見てきました。既に存在する施設等の使用状況等を見つつ、考えていきたい。私の考え方では、一つの建物は一つの目的のために存在するわけではないということです。市庁舎はただ行政の事務だけのものではなく、いろいろな経済効果を生む。例えば、活性化に向けた使用目的を備えることができるのではないかなど、あらゆる角度から物事を判断し決定していきたい。みなさまの忌憚のないご意見をお寄せいただけたら、また、そんな機会を作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

農業振興策と後継者問題について

- 後先になりますが、今、来年度の実施計画並びに予算の理事者の査定が終わったところです。これから市議会の決定をうけて確定していくわけではありますが、農業振興策につきましては、これまで続けてきた策に加えまして、私は、中野市の

産物を通して外の人に知っていただきたいと考えております。今年は、今は計画の段階ですが長野県でも東京銀座に県の施設を造ると。この説明を先般の市長会の説明で受けましたが、4月の中旬くらいからその使用の申込みを受け付けるといっていました。早急にストーリー性のある中野市を売り込む企画を考えて申し込みを行わないと、場所がいっぱいになってしまう。率先してこういった場を活用して中野市を売り込んでいきたい。それに加えて、10月くらいに首都圏で中野市の全体を売り込むB to Bのフェアをやろうと思っています。これを皮切りに首都圏方面で中野市を知っていただき、中野市ブランドを確立していきたい。

- 新幹線が中野飯山間で走るということで、JRに新幹線から見える景色のVTRをいただきたいと依頼をしている。新幹線が来ることによって、かなりこのあたりの人流が変わる。基本的には高速鉄道が引かれると購買力が流出するという傾向にあるんですが、むしろここは逆手にとりまして購買力をこちらに引き付けたい、引き入れたいと。中野市には竹原区を中心に果物の生産がさかんです。そういったものをはじめ、トータルで中野を売り込む絶好のチャンスだと思うので、先頭をきって積極的に外に向かってやっていきたい。
- 長野市長が直轄プロジェクトを始めたという話を聞きました。私も一年間いろいろ様子を見させていただいて市民の皆様から頂いた声のなかにスピード感がいまひとつというのを聞きましたので、直轄プロジェクトチームというのを設定していきたい。このプロジェクトがどんなものかという意気のある、やる気のある若手の職員を設定いたしましてこれにあたっていきたいと思っています。
- 農業振興策、後継者対策につきましては、私のなかでは、国の農業施策が大きく変わってくるなかで、これからまず大きな流れでみると、国は農業経営、いわゆるマネジメントそのものに注目しだしたのかなというふうに思います。物事は、人を育てて人が中心となってやるものであって機械がやるものではないというふうに思いますので、中野市においてもそうしたビジネスとしての経営として人材を育てていくそのための施策をいろいろ思案しているところであります。平成26年度初頭からはちょっと間に合わないかもしれないのですが、いずれにしても人材育成という形で何らかの策を打っていきたいと思っています。
- 後継者育成についてですが、新規就農者等々の支援につきましては従来どおり継続して実施していくつもりです。
- 一方で、昨年お邪魔した時に、嫁さん対策と言われましたが、これもいろんな形で行われているのですが、もうちょっと範囲を広げて角度を変えて実施できるよ

うな体制をとりたいと思っております。いろいろな機会をとらえて、他でやっている活動、例えば30歳の成人式というようなもの。新規就農者の首都圏フェアが東京であったのですが、かなりの方が集まってくれた。そういったニュースも流れておりますので機をとらえて逃さないように活用していきたい。

- 今一番頭の中にあるのは、観光です。観光にもいろいろあり、農業観光、産業観光というのもあり非常に裾野が広い。だからこそ、観光に力を入れたい。といいますのは信越9市町村等いろいろ始まっておりますが、その中で中野市が飛びぬけて目立つ、抜きでる施策をとるべきだと思っております。
- 中野市は信越9市町村の中では一番南にあります。また、南から見ると北に存在しているということで、両にらみで仕掛けを作っていこうかと思っております。具体的な話としては、小布施町、須坂市からいろんな意味での連携ができないかとお話しを頂戴しております。長野電鉄河東線を活用し、それをつないで人流で北に向かっていく、北からは人流を使ってこの竹原、東山を越えて小布施に流れるとかそういった人流を流す交通網の整備、公共交通といったものの整備をどうするかといったものにつきましても、先ほど言いましたプロジェクトを組成して、できるところから着手していこうと思っております。
- 連携ということで申し上げましたが、いろんなところからラブコールが来ておまして、それを一つ一つ整理しながら中野市にとってメリットのある選択をしていきたい。
- プロジェクトの中身をいくつか紹介したい。登山家の今井道子さんにお会いした時の話ですが、中野市という名前を知らなくて、このあたりは山ノ内町だと思っていた。ということがございます。エリアと名前が一致していない。信州中野のロゴマークもそうですが「ふるさと」という名前を使いまして全国に売り込んでいきたいと考えています。農業につきましては、中野市の物産を知ってもらうということで、外に向かってはそういった活動をしていきますが、中においてはみなさんにもう少し中野市自身のことを知ってもらおうということといたしまして、これも議会等で認められればですが、中野市の総合案内パンフレットを作成しようと思っております。具体的には、小布施町で「KURA」という雑誌の小布施町版を作ったのですが、そこには人から農産物、生産物含めまして歴史から観光施設まですべて掲げてあるということです。同じように中野市のすべてがわかるものをつくって、これをもってみなさんにも勉強していただき取り組んでいただきたい。
- もうひとつ、来年度の目玉としてばらサミットをやるのですが、従来、ばらまつ

りはばらまつり、サミットはサミット、音楽会は音楽会、そのほかに九歳市があつたりいろんなところでお祭りがあつたりする形だったのですが、トータルに全体を俯瞰して総合的に外に発信したいと考えております。

- 先般、「広報なかの」が県の広報誌のコンクールで最優秀賞をいただきまして今度、全国大会に出ます。スタッフのみんなと考えてリニューアルした結果なのですが、これからも広報活動については、市が先頭をきってやっていますので、なにかご要望があればおっしゃっていただきたいと思っております。
- 新幹線開業6ヶ月前までにはなんらかの形で着地型の観光プログラムを2、3本作りいろんなところに売り込んで、たくさんのお客が寄ってきてくれるようなものを作りたいです。6ヶ月前までにそういったものができなければ新幹線が走ってくるのに間に合わないということです。この竹原は果樹の一大生産地ですので、たくさんの方が来られるような仕掛けを当然考えさせていただこうと考えております。
- ご祝辞にもございましたが、地域は地域のみなさまが作るということで、自発的な活動への支援金を、継続して予算をあげてあります。そういったものを活用いたしまして、活動をますます盛り上げていただいて、地域の活動がそれぞれに地域で活発になることで、中野市がさらによくなると思っておりますのでよろしくお祈りいたします。

質疑応答

質問者1 市長さんのお話の中で後継者対策についてですが、息子が社会経験のために外で働いているのですが、数年後に農業を継ぎたいとあっており、市のHPを見たところ農業者対策支援事業という項目がありまして、細かく読んでいくと、先進農業者とか、農業研修とか書いてありまして、そういうところでないと支援はうけられないのか。親元でそのまま就農して自分の家で研修してそのまま自立していくようなパターンは対象にならないか。

市長 可能です。後継者育成ご支援申し上げます。

質問者1 うわさでは、可能と聞いていたが、HPには書いてない。あと、農業施設の支援金みたいなものの検討をお願いします。

市長 記憶にあるのは、利子補給かなにかはございますが、直接の資金そのものを貸付けするようなものはなかったと思います。利子補給で金利負担のない形で調達していただく。それでも研究開発等でなにか必要ということであれば、中野市の強みといいますか竹原のみなさんもそうですが、品種改良とか作るのが積極的な地域ですので、これが中野市のためになると判断できれば、私のほうで企画等しまして議会に諮り検討していきたい。

質問者 2 質問というよりは、お話を聞きながら聞きたいことがたくさんあったのですが、お話を聞く中で納得することが多くて、大変いいお話をきかせていただきました。その中で市庁舎のことですが、HPのなかで有利な財源を活用し財政の負担軽減を図るとありますが、具体的にどうゆうことかわからないので教えてほしい。

市長 有利な財源とは合併特例債のことです。実質負担が少ないということで、それはやっぱり使うべきだろうということです。

質問者 3 箱物の関連で一つお聞きしたい。庁舎のほうは現状の場所で、市民会館は中野高校の跡地に作るという計画でしょうか。

市長 4回の検討会での話し合いをふまえそのように決めました。まず、平成 29 年度供用開始で市庁舎。そのあと市民会館に着手するという事なんですが、今のところはそういったスケジュールで臨むことになっています。

質問者 3 私がいつも感じることは、市民会館といった箱物は、毎日使うものでもなく、そういった大きなものを作るといったことになると、もっと広域的に考えた箱物を作る必要があるのではないかと思う時に、中野市と山ノ内を考えた北公園、運動公園のあたりは広く土地があいているのでああった場所に作ったらどうかと思います。国道 292 号線の近くでもありますし便利がいいと思うのですが。これは私の個人の意見ですが、そういった意見はありましたか？

市長 たくさんの意見を、決定後も頂戴しております。ただ現段階では、先日決定した意見でとりあえず臨みます。人口動向をみてみないとなんともいえませんが、私自身も77市町村で同じように施設を作る必要があるのかというふうには思っています。この広域6市町村（中野以北）で広域連合の管内の人口というのは、10万人に満たないです。安曇野市と一緒にですね。そんななかでどうなんだろうという考えもありますが、市民のみなさんの文化活動を考えた場合に、そういったものも必要であろうと。これから予想されることでいいますと、北信病院に400名程のホールができます。そうすると人の動き人の流れが変わってきます。検討会でも話がありました。市民会館の前を通る立志館高校の生徒からも、いつも使われていない施設はどうなんだろうか、という意見も聞いています。様々な意見がありますが、これまでは建てる位置を決めさせていただいたということです。建物だけを考えるのではなくて、周辺のランドデザインもあるわけで、活用方法などは広域という見方も必要だと思いますのでそういった点も今後、みなさまにご提示してご意見を頂戴するなかで進めていくということになります。